小さなゆう気とやさしさ

小　二

わたしはお休みの日になると、いつも大きな公園にあそびにいきます。公園にはたくさん人がいるので、お父さんと妹と手をつないで、まい子にならないようにしています。

その日は、いつもよりたくさんの人があそびに来ていました。すべり台を何回もすべってつかれてきたので、休けいをしようと思ったとき、三才くらいの女の子がひとりで歩いて来ました。どうしてひとりなんだろうと思って見ていたら、女の子はなきだしてしまいました。

わたしは、

「どうしたの。ママはどこかな。」

と聞いてみました。でも、女の子はないてばかりです。何とかしなくてはと思って、

「この子のお母さんは、どこですか。お母さんは、どこですか。」

と大きな声でさけんでみました。するとすべり台の方から女

の人が走って来ました。もしかしたら、この子のお母さんかもしれないと思い、女の子と手をつないで近くに行きました。女の人はすぐに女の子をだきしめました。それから、

「お姉ちゃん、ありがとね。本当にありがとう。」

と、言ってくれました。女の子も、え顔で手をふってくれました。大きな声でさけんだときは、少しはずかしかったけれど、ゆう気を出してよかったなと思い、わたしもうれしくなりました。

家に帰って、お母さんに話したら、

「すごいね。えらかったね。」

と言ってだきしめてくれました。わたしは、

「お母さんがいつもやっていることを、まねしただけだよ。」

と言いました。わたしのお母さんは、スーパーなどで、ひとりで歩いていたり、ないていたりする子を見かけると、やさしく話しかけて、お母さんやお父さんを見つけています。それをいつも見ていたから、わたしもお

母さんと同じように、やさしくすることができたのです。

わたしは小さなゆう気とやさしさで、だれかをえ顔にすることができるということがわかりました。ひとりではなく、みんなのゆう気とやさしさがあつまれば、もっとたくさんの人がえ顔になれると思います。これからも、こまっている人がいたらゆう気を出してたすけたいと思います。わたしのゆう気とやさしさで、え顔をいっぱいにしていきたいです。